

都大評発第 3 号
平成 29 年 8 月 25 日

公立大学法人都留文科大学
理事長 横内正明様

都留市公立大学法人評価委員会
委員長 原 護
(公 印 省 略)

公立大学法人都留文科大学の平成 28 年度に係る
業務の実績に関する評価の結果について (通知)

このことについて、別添のとおり評価を行ったので、地方独立行政法人法第 28 条第 3 項の規定に基づき通知します。

公立大学法人都留文科大学の平成 28 年度
に係る業務の実績に関する評価結果書

平成 29 年 8 月 25 日

都留市公立大学法人評価委員会

— 目 次 —

I	評価実施の根拠法	1
II	評価の対象	1
III	評価の目的	1
IV	評価者	1
V	評価を実施した時期	1
VI	評価方法の概要	2
1	評価の実施に関する定め	2
2	評価の手法	2
3	法人の自己評価の方法	2
4	評価実施の経過	3
VII	評価の結果	3
1	総合的な評定	3
2	評価概要	3
(1)	全体的な状況	3
(2)	大項目ごとの状況	6
①	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	6
②	研究に関する目標を達成するためにとるべき措置	8
③	地域貢献及び国際化に関する目標を達成するためにとるべき措置	9
④	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	11
⑤	財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	12
⑥	自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するた めにとるべき措置	13
⑦	その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置	14
3	法人による自己評価結果と異なる評価を行った事項	15
VIII	法人に対する勧告	15
IX	法人からの意見の申し出とその対応	15
X	項目別評価結果総括表	16

公立大学法人都留文科大学の平成 28 年度に係る業務の実績に関する評価結果

I 評価実施の根拠法

地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 28 条

II 評価の対象

平成 28 年度における法人の中期計画（平成 27 年 3 月 17 日認可、平成 27 年 8 月 6 日変更認可、計画期間：平成 27 年度～平成 32 年度）の進捗状況

III 評価の目的

法人の大学運営上の問題点、改善すべき業務を明らかにすることにより、都留文科大学（以下「大学」という。）の継続的な質的向上を促進すること及び評価を通じ社会への説明責任を果たすことを目的として行う。

IV 評価者（評価委員会委員名簿）

氏 名	役 職 等	
原 護	委員長	きさらぎ監査法人 顧問
加 賀 公 英		(株) 文理学院 代表取締役理事長
小 林 孝 次		都留市教育委員会
信 田 恵 三		ひまわり法律事務所
村 田 俊 也		公益財団法人 山梨総合研究所専務理事

V 評価を実施した時期

平成 29 年 6 月 30 日～平成 29 年 8 月 25 日

VI 評価方法の概要

1 評価の実施に関する定め

公立大学法人都留文科大学の業務の実績に関する評価の実施要領（平成 22 年 1 月 27 日
都留市公立大学法人評価委員会決定、平成 28 年 6 月 22 日一部改正）

2 評価の手法

法人の自己評価の結果を活用する間接評価方式

3 法人の自己評価の方法（評価項目・評価基準及びその判断の目安の概要）

【最小単位別評価】			【大項目別評価】			【全体評価(総合的な評価)】		
①年度計画の最小項目ごとの達成状況を5段階評価			②中期計画の7つの大項目ごとの達成状況を5段階評価			③中期計画全体の進捗状況を5段階評価		
評点	評語	判断の目安	符号	評語	判断の目安	符号	評語	判断の目安
5	年度計画を十二分に達成	達成度120%以上	S	中期計画の進捗状況は優れて順調	①の評点の単純平均値4.3以上	S	中期計画の進捗状況は優れて順調	②を各大項目のウエイトで乗じた合計値4.3以上
4	年度計画を十分達成	100%以上120%未満	a	中期計画の進捗状況は順調	3.5以上4.2以下	A	中期計画の進捗状況は順調	3.5以上4.2以下
3	【標準】年度計画を概ね達成	90%以上100%未満	b	【標準】中期計画の進捗状況は概ね順調	2.7以上3.4以下	B	【標準】中期計画の進捗状況は概ね順調	2.7以上3.4以下
2	年度計画はやや未達成	70%以上90%未満	c	中期計画の進捗状況はやや遅れている	1.9以上2.6以下	C	中期計画の進捗状況はやや遅れている	1.9以上2.6以下
1	年度計画は未達成	70%未満	d	中期計画の進捗状況は遅れている	1.8以下	D	中期計画の進捗状況は遅れている	1.8以下

備考

1 最小単位別評価における判断の目安

- (1)年度計画が掲げる数値目標が「〇〇率100%」であるなど、当該目標の性質上、達成度が目標を超える余地がない場合には、「達成度が100%であったときを5」、「達成度が95%以上100%未満であったときを4」、「達成度が90%以上95%未満であったときを3」、「達成度が70%以上90%未満であったときを2」、「達成度が70%未満であったときを1」とする。
- (2)年度計画が「〇〇について検討(取り組む)する」ことを内容とするものである場合には、「当該検討の結果、他大学の模範となるような優れた効果、効用が発生したときを5」、「当該検討の結果、何らかの効果、効用が発生したときを4」、「当該検討の結果、期待する結果を得たときを3」、「期待する結果を得るに至らず引き続き検討段階であるときを2」、「取組みなしを1」とする。
- (3)最小単位別評価の評点うち3以上の評点の占める割合が90%未満の場合は、一段階下げも可とする。

4 評価実施の経過

6月28日	法人から業務実績報告書の提出
8月4日	都留市公立大学法人評価委員会開催
8月23日	評価書原案の法人提示
8月24日	評価書原案に対する法人意見の提出
8月25日	評価書の確定

Ⅶ 評価の結果

1 総合的な評定

「中期計画の進捗は概ね順調である」の B 評価

【理由】

法人の自己評価による総合的な評定は、「中期計画の進捗は概ね順調である」となっている。

評価委員会において法人から提出された書類、法人関係者からのヒアリング等に基づきその妥当性を検証したところ、一部に進捗の遅れはあるものの、概ね順調に推移しており評価委員会の総合評定は、法人の自己評価どおりとすることが妥当であると判断した。

2 評価概要

(1) 全体的な状況

大学淘汰の時代の中でも、将来にわたって学生から選ばれる「魅力あふれる大学」であり続けるため、国際教育学科の新設に留まらず、学科の改編・新学部の開設も控え、大学による自己改革が大きく進展しようとしている。これらの新たな取り組みを推進しつつも、過年度から積み残しとなっている課題に取り組むためには、地方独立行政法人法の理念に沿って、PDCA（目標⇒計画⇒評価⇒業務運営への反映）のサイクルに基づきながら、スピード感を持って対応していく必要がある。

平成28年度の事業評価については、第2期中期目標期間の2年目の評価ということもあり、目標達成に向けて着実に歩いていくための重要なものとなる。昨年度から進捗が見られず、評点が低い項目はもちろんのこと、「教育研究等の質の向上に向けた取り組み」、

「学生の支援」、「国際教育学科の新設並びに学科改編と新学部の開設」、「大学の地域貢献」の4点には特に着目し評価を行った。

まず、「教育研究等の質の向上に向けた取り組み」について、国際教育学科の新設と学部・学科の改編は、魅力あふれる大学づくりに向けた大きな一歩となるものである。「選ばれる大学づくり」を意識し、時代のニーズにも応えることができるものとして、引き続き推進していただきたい。また、グローバル化を支える人材の育成を目標に掲げていることから、TOEIC-IPテスト及びTOEFL受験者数については、学生の国際意識の醸成を図るための指標として意識していただきたい。

次に、「学生の支援」については、学生の充実した就学環境のために、学習環境の整備のみならず、学生生活の支援体制も整備される必要がある。心身が健康であると共に、経済的により安定した環境下で勉学に専念できるよう、学習・学生生活を支援するサポート体制の構築を図っていただきたい。新入生メンタルテストについては、今後も細やかなサポートに努めると共に、今後は在学生のケア推進についても検討していただきたい。また、奨学金制度について、現行の給付型奨学金・奨励金のほか、今後も学生の生活状況等を把握し、ニーズにあった制度を検討していただきたい。

次に、「国際教育学科の新設並びに学科改編と新学部の開設」については、今年度より国際教育学科が新設され、平成30年度に学部・学科を改編し、学校教育学科と地域社会学科を配置した「教養学部」を開設する等、これまでに経験の無い改革を行っており、今後の大学の発展が期待されている。新しい大学の構築を滞りなく行うためにも、万全の体制で臨みたい。

次に、「大学の地域貢献」については、都留市における地域教育の大きな特色となっているSAT（学生アシスタントティーチャー）等、大学の存在意義を高める活動として今後も非常に期待される。逆に、学生の自主的な活動を支援するチャレンジ・プロジェクトへの申請が1件のみであったことから、現状における問題点を整理し、目標数値を達成するための取り組みを検討する必要がある。また、都留市が推進している「生涯活躍のまち・つる」事業については、都留文科大学が中心となり、大学コンソーシアムつるにおいて、

他大学との連携を図りながら、市民の生涯学習機会の拡大を図るための独自プログラムの構築や聴講生制度の充実に早急に取り組んでいただきたい。

都留市の最高規範である「都留市自治基本条例」では、大学の役割として、「市や市民等と連携、協働する中で、大学はその知的資源を最大限に活用し、都留市のまちづくりに寄与するとともに、市民と学生の交流を積極的に進め、都留市の活性化に努めること」としている。また、大学の運営は、授業料収入等の大学独自の自主財源のほか、都留市からの運営費交付金によって維持されている。このことを踏まえ、大学は、市民に支援されていることを十分に認識し、これまで以上に地域課題に対して積極的に取り組み、その成果を広く市民に還元することが命題であり、それを意識する中で、より个性的で魅力的な事業展開を図っていただきたい。

結びに、大学には、刻々と変化する社会情勢を敏感に感じ取り、社会の要請に応える人材を育成、輩出することで、持続的に発展することを期待する。

今後とも、理事長、学長のリーダーシップのもと、第2期中期目標が確実に達成できるような組織体制の強化を図り、不断の自己改革を実行していただくようお願いする。

(2) 大項目ごとの状況

① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

- ア 教育に関する目標を達成するための措置
 イ 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置
 ウ 学生への支援に関する目標を達成するための措置

大項目評点	評点平均値	小項目評価		
		評点	評点別項目数	項目構成比
a→b	3.7	5点	26	32.9%
		4点	17	21.5%
		3点	27	34.2%
		2点	6	7.6%
		1点	3	3.8%
		合計	79	100.0%

※「最小単位別評価の評点平均値」が3.5以上ではあるが、「3点以上の評点が占める割合」については88.6%で90%未満であるため、評定を1段階引き下げ「b評価」とした。

ア 教育に関する目標を達成するための措置

- 質の高い入学者の選抜方法等を検討し、適正な改善を図っていただきたい【9】
- 「TOEIC-IPテスト、TOEFL試験受験者数の増加」については、グローバル化を支える人材育成に向け、数値目標の達成に意識的に取り組むと共に、平均点増加等の学力の向上につながるよう取り組んでいただきたい。【17】
- 少人数教育が実施できるよう、適正に教員を配置されたい。【22】

以下に掲げる項目の進捗はやや遅れているため、迅速に実施されたい。

- ・ 大学附属図書館ガイダンス等の参加人数の増加【14】
- ・ Word&Excel講座、PowerPoint講座の参加学生数の増加【16】
- ・ TOEIC-IPテスト、TOEFL試験受験者数の増加【17】
- ・ 教職課程における、履修カルテ（ポートフォリオ）を活用した、きめ細かい指導・助言・援助【19】
- ・ 教員1名当たり学生数30名以内【22】

イ 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

- 「知のフォレストキャンパス（仮称）」構想については、多大な整備費用が見込まれ、第1期中期目標期間中の積立金を繰り越した経緯を踏まえ、市と協議する中で、魅力あふれる大学づくりに向けた施設整備を推進されたい。【40】
- 「授業評価アンケート」については、学生の意見を聞く重要な機会であるため、実施率の向上とともに、その活用方法についても確立されたい。【44】

以下に掲げる項目の進捗はやや遅れているため、迅速に実施されたい。

- ・「知のフォレストキャンパス（仮称）」構想の策定、実施【40、再掲】

ウ 学生への支援に関する目標を達成するための措置

- 「新入生メンタルテスト」については、引き続き、数値目標の達成に励むとともに、細やかなサポートに努められたい。また新入生に留まらず、今後は在学生のケアも検討されたい。【45】
- 「独自の奨学金」について、今後も学生の生活状況等を把握し、ニーズにあった制度を検討されたい。【54】
- 「学生の自主的活動を支援するチャレンジ・プロジェクト」については、申請が1件だったことから、現状における問題点を整理し、目標数値を達成するための取り組みを検討されたい。【55】

以下に掲げる項目の進捗はやや遅れているため、迅速に実施されたい。

- ・チャレンジ・プロジェクト実施件数の増加【55】

② 研究に関する目標を達成するためにとるべき措置

- | |
|--------------------------------|
| ア 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置 |
| イ 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置 |

大項目評点	評点平均値	小項目評価		
		評点	評点別項目数	項目構成比
a→b	3.6	5点	5	35.7%
		4点	4	28.6%
		3点	2	14.3%
		2点	1	7.1%
		1点	2	14.3%
		合計	14	100.0%

※「最小単位別評価の評点平均値」が3.5以上ではあるが、「3点以上の評点が占める割合」については78.6%で90%未満であるため、評定を1段階引き下げ「b評価」とした。

ア 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

- 「個々の教員の研究に対する学術研究費補助金への申請」については、「研究の質の向上」に欠かせないものであり、「教育の質の向上」へとつながるものである。特に地域研究テーマについては、研究成果を地域へフィードバックすることが地域貢献としても大きな成果となる。今後とも継続的な支援に努められたい。【61】【62】

以下に掲げる項目の進捗はやや遅れているため、迅速に実施されたい。

- ・ 出版助成制度利用件数 3 件以上 【60】

イ 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

- 「科学研究費補助金」「特別教育研究費交付金」については、数値目標を下回っている。教員の研究の活性化が、「教育の質の向上」につながるものであることを意識し、数値目標の達成に向けた改善策について検討されたい。【65】【67】

以下に掲げる項目の進捗はやや遅れているため、迅速に実施されたい。

- ・ 科学研究費補助金申請者割合 60%以上 【65】
- ・ 特別教育研究費交付 5 件以上 【67】

③ 地域貢献及び国際化に関する目標を達成するためにとるべき措置

- | |
|-------------------------------|
| ア 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置 |
| イ 国際化に関する目標を達成するための措置 |

大項目評点	評点平均値	小項目評価		
		評点	評点別項目数	項目構成比
a→b	3.9	5点	12	34.3%
		4点	12	34.3%
		3点	7	20.0%
		2点	3	8.6%
		1点	1	2.9%
		合計	35	100.0%

※「最小単位別評価の評点平均値」が3.5以上ではあるが、「3点以上の評点が占める割合」については88.6%で90%未満であるため、評定を1段階引き下げ「b評価」とした。

ア 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置

- 「大学コンソーシアムつる」において、市内3大学それぞれの特徴や強みを活かした相互連携を図ることにより、学生間交流による地域の活性化や、学生の資質向上につなげられたい。【73】
- 都留市における地域教育の大きな特色となっているSAT（学生アシスタントティーチャー）については、平成28年度も多くの学生が参加しており、教員を目指す学生にとって、教育現場を体験できる貴重な仕組みとなっている。こういった活動は、大学の存在意義を高める活動として非常に評価できるものであり、今後も推進されたい。【75】【77】
- 「社会人のための独自プログラムの策定」については、都留市が推進している「生涯活躍のまち・つる」事業において重要な位置付けとなっている。市との連携や、大学コンソーシアムつるにおける他大学との連携も図りながら、スピード感を持った対応を期待する。【80】

イ 国際化に関する目標を達成するための措置

- 都留で学ぶ留学生の受け入れや、グローバル教育奨学金など、海外の学生と交流するための基盤は整っている。これらを最大限に活用し、学生が国際感覚を涵養できるような仕組みを構築されたい。【82】【85】

以下に掲げる項目の進捗はやや遅れているため、迅速に実施されたい。

- ・ 本学海外協定校図書館とのデジタル資料のリンク公開【86】

④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

- | | |
|---|------------------------------|
| ア | 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置 |
| イ | 多様な教職員の活躍の促進に関する目標を達成するための措置 |
| ウ | 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 |

大項目評点	評点平均値	小項目評価		
		評点	評点別項目数	項目構成比
a	3.6	5点	3	14.3%
		4点	10	47.6%
		3点	6	28.6%
		2点	0	0.0%
		1点	2	9.5%
		合計	21	100.0%

ア 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置

- 「教員及び事務職員の業績評価」については、双方が納得できる公平な評価システムを確立し、給与への反映などのインセンティブとして活用できるよう、他大学の先進事例を調査するなど、検討を進められたい。【93】

イ 多様な教職員の活躍の促進に関する目標を達成するための措置

- 「職員及び教員の適正配置」は、大学の運営において非常に重要な問題である。市と協議し、市からの派遣職員とのバランスを考慮しながら、計画的にプロパー職員の採用を行い、適切な職員配置に努められたい。【96】【98】
- 学生だけでなく、教職員の健康管理も適正に行い、定期健康診断等も積極的に受診されたい。【100】

以下に掲げる項目の進捗はやや遅れているため、迅速に実施されたい。

- ・ 教員の定期健康診断受診率の向上 【100】

ウ 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

- 新学科開設や学部・学科改編等の大学を取り巻く環境の変化に対応できるように計画的な職員研修等を開催されたい。【103】

⑤ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

ア	外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置
イ	予算の適正かつ効率的な執行に関する目標を達成するための措置
ウ	資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

大項目評点	評点平均値	小項目評価		
		評点	評点別項目数	項目構成比
b→c	3.3	5点	0	0.0%
		4点	3	42.9%
		3点	3	42.9%
		2点	1	14.3%
		1点	0	0.0%
		合計	7	100.0%

※「最小単位別評価の評点平均値」が2.7以上3.4以下の範囲ではあるが、「3点以上の評点が占める割合」については85.7%で90%未満であるため、評定を1段階引き下げ「c評価」とした。

ア 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

- 「社会人対象の有料公開講座」については、ニーズ調査を実施し、社会人のための独自プログラムと併せ、スピード感を持ち実施されたい。【106】

イ 予算の適正かつ効率的な執行に関する目標を達成するための措置

- 一般管理費及び光熱水費の削減については、大学の経営努力が見られている。大学の運営には、市からの交付金も含まれていることを意識し、今後とも更なる経費の削減に努められたい。【108】

ウ 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

- 大学が保有する多くの施設について有効活用を図るため、市民が利用できることを周知し、市民開放件数の増加に努められたい。【109】

⑥ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

- | |
|---------------------------------|
| ア 評価の充実に関する目標を達成するための措置 |
| イ 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置 |

大項目評点	評点平均値	小項目評価		
		評点	評点別項目数	項目構成比
a	3.8	5点	1	20.0%
		4点	2	40.0%
		3点	2	40.0%
		2点	0	0.0%
		1点	0	0.0%
		合計	5	100.0%

ア 評価の充実に関する目標を達成するための措置

- 事業報告書については、事業の実施状況に留まらず、点数が低い項目については、目標の達成に向けた改善策について記載するなど、今後も内容を充実されたい。

【110】

イ 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置

- ホームページのリニューアルや新学科の新聞掲載等、大学をアピールしていることは評価できる。今後も多様なメディアを活用した戦略的なプロモーションを実施されたい。【112】

⑦ その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

- ア 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置
- イ 安全管理に関する目標を達成するための措置
- ウ 法令遵守に関する目標を達成するための措置
- エ 環境への配慮に関する目標を達成するための措置

大項目評点	評点平均値	小項目評価		
		評点	評点別項目数	項目構成比
b→c	3.0	5点	0	0.0%
		4点	3	27.3%
		3点	5	45.5%
		2点	3	27.3%
		1点	0	0.0%
		合計	11	100.0%

※「最小単位別評価の評点平均値」が2.7以上3.4以下の範囲ではあるが、「3点以上の評点が占める割合」については72.7%で90%未満であるため、評点を1段階引き下げ「c評価」とした。

ア 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

- 引き続き、ラーニング・コモンズとして、学生の自学・自習スペースの整備に努められたい。【再掲】

イ 安全管理に関する目標を達成するための措置

- 昨今のインターネットを取り巻く脅威に対して適切に対応するため、情報セキュリティポリシーを早急に策定し、情報の管理を徹底されたい。【116】

以下に掲げる項目の進捗はやや遅れているため、迅速に実施されたい。

- ・防災訓練に関して地元自治会との連携を図る【114】
- ・情報セキュリティポリシーを策定【116】

ウ 法令遵守に関する目標を達成するための措置

- 大学は、非常に多くの個人情報管理しているという意識を持ち、引き続き個人情報保護の体制を充実されたい。【118】

エ 環境への配慮に関する目標を達成するための措置

- 引き続き、学生や市民等を対象にした環境教育の実施を推進されたい。【120】

3 法人による自己評価結果と異なる評価を行った事項

第2 研究に関する目標を達成するためにとるべき措置

(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

- 共同利用を目的とした 3D プリンターを美術棟内に設置するための施設整備を行う。【66】 3 → 4

VIII 法人に対する勧告

なし

IX 法人からの意見の申し出とその対応

平成 29 年 8 月 23 日に評価書原案を法人に提示し意見照会を行った結果、8 月 24 日付けで、「意見はない」旨回答があったことから、評価書原案を評価書として確定した。

X 項目別評価結果総括表

(別表のとおり)

注 1 : 「VII 評価の結果 1 総合的な評定」欄には、全体評価に係る評定及びその理由を記載する。

注 2 : 「VII 評価の結果 2 評価概要」欄には、当該年度の法人の業務運営における特徴的な事項、長所、問題点等に関し、評価の目的を達成するため、説明を付すことが適当と判断した事項、特記することが適当と判断した事項等について記載する。

注 3 : 「VIII 法人に対する勧告」は、法人に対し必要な措置を求める必要があると判断した事項について記載する。

(5)平成28年度の事業年度評価に係る項目別評価結果総括表

区分 (大項目) (中項目)	中期計画項目数 ①	最小単位別評価の対象項目数(年度計画項目数) ②	最小単位別評価の評点の内訳(個数)						最小単位別評価の評点平均値 ⑨	前年	最小単位別評価の評点の内訳構成割合(%)							前年	大項目別評価(評定) ⑰	大項目のウェイト ⑱	備考
			5点 ③	4点 ④	3点 ⑤	2点 ⑥	1点 ⑦	計 ⑧			5点 ⑩	4点 ⑪	3点 ⑫	2点 ⑬	1点 ⑭	計 ⑮	3点以上の評点が占める割合 ⑯				
第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	58	80	26	17	27	6	3	79	3.7	3.7	32.9	21.5	34.2	7.6	3.8	100.0	88.6	80.0	a → b	0.2	
1 教育に関する目標を達成するための措置	37	52	17	5	23	5	2	52	3.6	3.5	32.7	9.6	44.2	9.6	3.8	100.0	86.5	75.5			
2 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	8	12	2	7	1	1	0	11	3.9	3.7	18.2	63.6	9.1	9.1	0.0	100.0	90.9	81.8			【再掲】(24)と併し
3 学生への支援に関する目標を達成するための措置	13	16	7	5	3	0	1	16	4.1	4.1	43.8	31.3	18.8	0.0	6.3	100.0	93.8	93.8			
第2 研究に関する目標を達成するためにとるべき措置	10	14	5	4	2	1	2	14	3.6	3.0	35.7	28.6	14.3	7.1	14.3	100.0	78.6	57.1	a → b	0.2	
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	5	5	3	0	1	0	1	5	3.8	2.6	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	100.0	80.0	40.0			
2 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置	5	9	2	4	1	1	1	9	3.6	3.2	22.2	44.4	11.1	11.1	11.1	100.0	77.8	66.7			
第3 地域貢献及び国際化に関する目標を達成するためにとるべき措置	21	35	12	12	7	3	1	35	3.9	3.9	34.3	34.3	20.0	8.6	2.9	100.0	88.6	86.5	a → b	0.1	
1 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置	13	24	7	12	4	1	0	24	4.0	3.9	29.2	50.0	16.7	4.2	0.0	100.0	95.8	87.5			
2 国際化に関する目標を達成するための措置	8	11	5	0	3	2	1	11	3.5	3.8	45.5	0.0	27.3	18.2	9.1	100.0	72.7	84.6			
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	16	25	3	10	6	0	2	21	3.6	3.8	14.3	47.6	28.6	0.0	9.5	100.0	90.5	87.0	a	0.2	
1 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置	7	11	3	6	1	0	0	10	4.2	4.0	30.0	60.0	10.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0			【98】(91)と併し
2 多様な教職員の活躍の促進に関する目標を達成するための措置	6	9	0	3	3	0	1	7	3.1	3.4	0.0	42.9	42.9	0.0	14.3	100.0	85.7	62.5			【再掲】(92)と併し
3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	3	5	0	1	2	0	1	4	2.8	4.0	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	100.0	75.0	100.0			【101】(96)と併し
第5 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	6	7	0	3	3	1	0	7	3.3	3.6	0.0	42.9	42.9	14.3	0.0	100.0	85.7	71.4	b → c	0.2	
1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	4	4	0	0	3	1	0	4	2.8	3.3	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	100.0	75.0	75.0			
2 予算の適正かつ効率的な執行に関する目標を達成するための措置	1	2	0	2	0	0	0	2	4.0	3.5	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	50.0			
3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	5.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0			
第6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置	3	5	1	2	2	0	0	5	3.8	4.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	a	0.05	
1 評価の充実に関する目標を達成するための措置	2	2	0	1	1	0	0	2	3.5	3.5	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0			
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置	1	3	1	1	1	0	0	3	4.0	4.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0			
第7 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置	10	11	0	3	5	3	0	11	3.0	3.6	0.0	27.3	45.5	27.3	0.0	100.0	72.7	72.7	b → c	0.05	
1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	2	2	0	1	0	1	0	2	3.0	3.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	100.0	50.0	50.0			
2 安全管理に関する目標を達成するための措置	4	4	0	0	2	2	0	4	2.5	4.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0	50.0	75.0			
3 法令遵守に関する目標を達成するための措置	2	2	0	0	2	0	0	2	3.0	3.5	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0			
4 環境への配慮に関する目標を達成するための措置	2	3	0	2	1	0	0	3	3.7	3.7	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	100.0	66.7			
単純合計(ウェイト非考慮)	124	177	47	51	52	14	8	172	3.7	3.7	27.3	29.7	30.2	8.1	4.7	100.0	87.2	80.2			

全体評価(総合的な評定)

									3.6	3.6	21.0	34.9	30.3	8.0	5.8	100.0	86.2	76.4	B	1.00
--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----	-----	------	------	------	-----	-----	-------	------	------	---	------

注:大項目及び単純合計の評点には、一の大項目内にある最小項目記載事項の再掲の評点は含まない。一の大項目に再掲があり、計が一致しない場合は、備考欄に注記する。

